

事務事業名 ちくしの歴史・文化発信事業

出力日：令和07年03月18日

キーコード：694

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-03-570
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～			新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民、在勤・通学者、福岡都市圏住民 教育・研究機関 歴史、文化・芸術関係団体				○常設展は通年展示しており、古くから交通の要衝としてさまざまな人やモノの交流があった本市の特徴を生かして「交易と旅」をテーマとし、原始から近代に至る「通史」を展示 ○企画展は3回実施 国史跡指定10年記念「宝満山」 古文書からの伝言其の四「旅のガイドは木版画」展 筑紫野市のうつりかわり展 ○ロビー展示は8回実施「宝満山から英彦山へ」「詩人安西均」他 ○学習支援は、主催講座・イベント30回実施、小学校や地域等への職員の派遣25件、博物館ボランティアの活動支援、SNSを活用した「Memoriesちくしの」(X:旧Twitter)による学習情報の発信、小学校への昔の道具の貸出、パッケージ資料の製作と貸出を実施						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				○ロビー展示は8回実施「宝満山から英彦山へ」「詩人安西均」他						
地域への理解を深め、市民の自治能力の向上を図ります。 市民に対し、学習意欲の喚起を促し、地域学習の推進を図ります。 市の施策・事業や市民活動に対し、資料提供、助言を行なうとともにこれを支援します。 学校教育に対し資料提供、並びに教育支援を行います。				○学習支援は、主催講座・イベント30回実施、小学校や地域等への職員の派遣25件、博物館ボランティアの活動支援、SNSを活用した「Memoriesちくしの」(X:旧Twitter)による学習情報の発信、小学校への昔の道具の貸出、パッケージ資料の製作と貸出を実施						
4．成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称			単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
問い合わせへの学習支援数			回	362	619	300	300			
来館者数			人	11,088	13,808	12,000	12,000			
5．コスト										
事業費			計	千円	1,870	1,492	1,939	1,835		
			国	千円	0	0	0	0		
			県	千円	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0		
			一般	千円	1,870	1,492	1,939	1,835		
正職員人工数			人工	1.5	1.5	1.4				
正職員人件費			千円	11,592	11,723	11,232				
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)			千円	13,462	13,215	13,171	1,835			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
●あがっている ○どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		令和5年度は、企画展3回、ロビー展8回を実施しました。近隣では珍しい古文書の展示も4回目を実施できました。また国史跡「宝満山」が指定から10年を迎えたことを記念し霊山宝満山を学ぶ機会として、企画展、ロビー展、記念講座を実施しました。新型コロナウイルス感染症が第5類になったことから、小学校の昔の道具体験を博物館で再開し、併せてコロナ禍に開始した昔の道具の貸出も継続し、学校の事情に応じた学習支援を行いました。SNSで学ぶ歴史と文化事業については4年目を迎え、郷土の民俗を発信する「Memoriesちくしの」(Xによる学習情報の発信)の実施、また2年目となる文化財課職員による歴史講座も内容を充実させて全9回を実施しました。展示、講座等を実施し、年間を通じて郷土の歴史や文化を学ぶ機会を提供することができました。								
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	収蔵資料に精通し、多分野の資料を適正に取扱い、企画展や学習支援が行える博物館学芸員が不在である。また、近世～明治期にかけての文書・古記録を多く有する本市において、それらの目録作成及び活用ができる博物館職員が必要である。収蔵資料の活用、学習の機会提供を継続して行なうためには、専門の知識を有した正規の学芸員の配置が必要である。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	大きい									
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性 ●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了						
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
常設展については、開館から26年を経過し、映像機器、照明機器及び展示設備に老朽化による不具合が生じ、見学に支障が出ています。常設展のリニューアルに向け検討が必要です。				博物館を含む文化財課のホームページをリニューアルし、来館しなくても様々な情報や学習情報を提供できる環境を整えることで、市民の歴史学習の機会を得るための選択肢が増え、また利便性が高まると考えます。リニューアルに向け検討が必要です。当面は、SMSを利用した学習情報の発信や貸出資料のパッケージ化などを今後も検討を重ね進めていきたい。						
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄						
これまで、企画展示や講座等を行い博物館が郷土の歴史や文化について発信することが主であった。近年は、地域のコミュニティが地元の歴史や文化について積極的に事業を展開しており、その支援を行うことが増えている。										